

医師として広島県を
“えっと”楽しむマガジン

#001
2013 SPRING
【えっと】
広島県

ÉTTO

医師の皆さんが広島に“えっと”来てくれたら、
広島の人々は“えっと”幸せです。

医師として広島県を
“えっと”楽しむマガジン

ÉTTO

【えっと】 2013 SPRING

#001

(財)広島県地域保健医療推進機構



写真提供：広島県

地域医療への扉

ふるさとドクターネット広島

「ふるさとドクターネット広島」は、広島県の地域医療を担う医師・研修医の方々とネットワークづくりを目的としたサイトです。
広島県の医療に関心のある医師・研修医・医学生のみなさまの登録をお待ちしております。

ふるさとドクターネット広島のご紹介

- 広島県で活躍中の医師へのインタビュー、コラム等のほか、医療機関の求人情報、臨床研修病院の情報、人材育成のための取組の紹介や、広島県内市町の暮らしの情報等も掲載しています。
- また、相談コーナーでは、みなさまからの質問にお答えしています。
- ご登録いただいた方には、
 - ・毎月1回のメルマガ等、定期的に広島の医療情報をお送りします。
 - ・就業に関する個別相談をお受けします。全国どこにでも出張面談いたしますので、お気軽にご相談ください。

財団法人広島県地域保健医療推進機構は、広島県、県内全市町、広島県医師会、広島大学により構成し、広島県の地域医療の確保等のため、平成23年7月に設置された公的団体です。
わたしたちは、広島県内の地域医療の確保に向けて、医師の地域偏在・診療科偏在解消のための配置調整や医師確保、人材育成等に総合的に取り組んでいます。医師の立場からの助言ができるよう、自治医科大学出身の内科医師も勤務しており、みなさまのご相談やご希望を伺っています。



■ お問い合わせ

(財)広島県地域保健医療推進機構 地域医療推進部
〒734-0007 広島市南区皆実町一丁目6-29
電話：082-256-2011
FAX：082-256-2026
E-Mail：iryuu@hiroshima-hm.or.jp
<http://www.dn-hiroshima.jp>



地域医療への扉

ふるさとドクターネット広島

財団法人広島県地域保健医療推進機構



ÉTTO

医師として広島県を“えっと”楽しむマガジン

INDEX

p.02

ÉTTO × スペシャル対談

医師が“輝く”広島県には、理由がある。
「南斗六星研修ネットひろしま」の魅力

広島中山間地病院連携
地域医療研修プログラム

「南斗六星研修ネットひろしま」について
プログラムの概要

p.08

ÉTTO × インタビュー

広島県を支える、誇り高き医師。

広島市立安佐市民病院
循環器内科主任部長 内科部長
広島県医師会 常任理事
広島県地域保健対策協議会 常任理事
土手慶五先生

p.10

Hiroshima Green Summit

～ 広島グリーンサミット～
初期研修医ネットワーク「HGS」

p.14

ひろしま未来医師 魅力学課
福山エリア編

p.16

ÉTTO × 広島

広島県の面白さを医師として
楽しむことにしました。



アービー



ひろ子先生



島先生



アビじい



広島県、動く。
あなたに向けて。

親しまれ、愛され、信頼される医療がある。
あなたが医師として輝き、幸せになれる広島県がある。
あなたの豊かな医師人生のために、広島県は動きます。

広島で活躍する医師たちを通して広島県の医療と医師の魅力を紹介するマガジン、「ÉTTO(えっと)」。

“えっと”は、“たくさん”という意味の広島の方言で、広島の医師になることは、“たくさん”の幸せがあるという意味が込められています。

私たちは、広島の医師が、“えっと”幸せになれば、広島の人々も、“えっと”幸せになれると確信しています。

この「ÉTTO」を通して広島県で活躍する医師の姿、そして広島の医療を知っていただき「広島県で医師をしたい」、

「広島県で医師であり続けたい」と一人でも“ÉTTO”感じていただけたら幸いです。

ÉTTO
Talk Session



安信 祐治 先生
三次地区医療センター 院長

武澤 巖 先生
安芸太田病院 院長

中西 敏夫 先生
市立三次中央病院 院長

多幾山 渉 先生
広島市立安佐市民病院 院長

中島 浩一郎 先生
庄原赤十字病院 院長

ÉTTO × スペシャル対談

多幾山先生：研修という視点からみると、地域の病院は、ひとつでは決して症例数は多くない。しかし、10病院が連携すると、大きな医療資源となり、症例数も非常に多くなる。このA・B・Cグループをローテーションすることで、高度な専門的医療技術から地域医療、そして多くの症例数を経験することができるんです。

中西先生：研修プログラムの作成にあたっては、まず、自院のアピールできる魅力を考えることから始めました。そして、皆が各病院の魅力を持ち寄り、研修プログラムをまとめたんです。この研修プログラムには10病院の魅力が詰まっています。

多幾山先生：10病院は、その規模や機能別にA・B・Cと3つのグループにわかれています。Aグループは、総合病院として多くの症例数を持ち、高度な診療技術を磨くことができます。Bグループは、地域医療に近い中規模の病院。症例数もあり、地域に特化した患者さんを中心とみることができ。そしてCグループは、地域医療の最前線に位置する、へき地の拠点病院であり、地域医療を本格的に勉強することができます。

中西先生：今まで広島県中山間地域の病院長は、地域医療問題などを一人で悩んでいたんです。そこで、設立母体を超えて10病院のトップが集まり、地域医療を立て直そうということで、「広島中山間地域病院長コンソーシアム」を作

りました。どの病院も頭を抱えていたのが医師不足問題。この地域の医療提供の再生には、地域で働いてもらえる先生方を地域で育てるしかない。それには、魅力ある研修プログラムが必要だということ誕生したのが、「南斗六星研修ネットひろしま」なんです。

医師が“輝く”広島県には、理由がある。 「南斗六星研修ネットひろしま」の魅力

広島県、中山間地に若い医師を。
10病院が連携した「南斗六星研修ネットひろしま」で、医師人生の輝きを手に入れる。



中島先生：各病院の研修にはそれぞれに独自性があります。Bグループの庄原赤十字病院では、2012年7月から無医地区を回って診療する「移動診療車」が稼働し、へき地巡回診療を経験することができている。さらに、訪れる患者さんのほとんどはプライマリ・ケアの状態なので、自分で診察、診断、検査を行い、指導医のもとで治療ができ、診断能力をしっかりと磨くことができます。

武澤先生：Cグループの安芸太田病院には、「認知症疾患治療棟」があり、また、安佐市民病院から逆紹介された、がん手術後の患者さんなど、外来での化学療法にも対応し在宅までの幅広い医療を提供している。専門性も確保しながら、救急医療にてトリアージ能力を高めてもらうこともできます。実践力が身につく、独立心の備わった医師を養成することができると。



多幾山先生：それとこの研修プログラムは、ある専門医としてキャリアを持っているが、「地域医療に貢献したい」、「総合医の勉強がしたい」という先生や、子育てにより医師を中断し、再び医療現場に復帰したい先生の復職トレーニングとして利用しても構わないんです。

中島先生：ただ、どうしても中山間部ということで、住環境などの問題で敬遠される先生もいると思います。住環境に関しては中西先生の発案で、5階建ての医師マンションを病院の近くに建てました。市内の賃貸マンションのレベルを遥かに超えた、分譲マンションクラスだという評判です。

中西先生：やはり、地域の病院ですから、単身赴任で来ている医師は多い。自分が家族と一緒に住もうとしたとき、キレイな方がいいじゃないですか。これは絶対に作らなければダメだと思っただけです。

センターは、医師会立病院であり、かかりつけ医の支援や、市立三次中央病院と連携しながら、在宅医療を視点に多職種を含めたスタッフ全員でのチーム医療を実践しています。患者さんから、その家族、そして地域へ、という大きな視点で家庭医としての研修ができるのが魅力です。

武澤先生：安芸太田病院も、多数の診療所と密な連携もしています。これはCグループの特長ですね。先ほど話したように、うちには「認知症疾患治療棟」があるので、高齢者医療という近い将来、都市部においても重要な位置を占める分野の医療も習得することができると。

多幾山先生：Aグループの安佐市民病院は、地域の中核病院として各診療科で高度先進医療を提供し、経験豊富な専門医と指導マインドに富んだ素晴らしい指導医がたくさんいます。みんな、教えることによって自分の技術、知識を更新しながら進化していく。そういうシステムができていますし、それに自信をもっています。ハード面ではPET・CTを導入するなど、総合病院として高い専門性を追求できる環境を整えています。

中西先生：Aグループの市立三次中央病院は、東北の最後の砦として位置し、さらなる急性期医療の充実のため最新鋭の320列CTを導入しました。研修医の皆さんには地域医療、プライマリ・ケア、専門科研修、いずれも豊富な症

安信先生：それに、中山間地域は自然が豊かですから、子育てにはもってこいの環境だと思います。うちの病院には、院内保育所があって、女性医師が安心して働ける環境も用意しています。せっかく医師になったんだから、気持ちよく働いてもらいたいし、幸せな医師人生を送って欲しい。

多幾山先生：やはり、自分の仕事場がしっかりしている、それが医師としての幸せだと思うんです。自分が働く場所にしっかりと根を張って、自分の存在感を自覚できる。そういう環境を提供していきたいですし、そういう医師を育てていきたいですね。

中島先生：そうですね。やはり医師として「存在感」を感じられることは幸せです。それは相手があつてこそ成り立つもの。我々は患者さんがよく見える立ち位置にいる。その患者さんに笑顔をもたらすことができた自分というものに、喜びを感じると思います。そういう面では、10病院は常に患者さんに近いところにいる。この研修プログラムは、医師としての喜び、幸せに繋がるのではないかと思います。

武澤先生：たとえば、研修に来てくれた先生方が「良かった」といってくれる。それは病院としてのエネルギーとなり、地域のエネルギーにもなっていく。その持続が地域医療の活性化に繋がると思っています。そのために、私たちは充実した研修環境の提供とサポートを惜しみません。病院は、地域のエネルギー源と

例数を経験することができると。週末は広島市に帰るなど単身赴任の先生が多いので、病院の電子カルテをどこにいても閲覧できるシステムを導入し、医師全員（約60人）にiPadを配布しました。病院全体としての導入は全国初であり、これにより患者急変時にもカルテを見ながら電話で指示ができるようになった。連携する病院からも情報共有ができるよう計画しているところだ。

多幾山先生：それぞれに魅力をもった、A・B・Cグループの病院を最大限に活用することで、知識、技術の習得はもちろん、いろんな病院と顔と顔がみえるという関係が構築される。本当にいい研修プログラムだと思っています。また、10病院の分布地図を見るとわかりますが、各病院がバランスよく中山間部に分布しているため、高速道路のインターに近い場所に住めば、引越しやすいことな

中西先生：やはり総合医というのは、なかなか一つの病院では育てることができないと思うんです。この研修プログラムでは、それぞれに独自性をもった10病院で地域医療から専門科まで勉強することができると。

中島先生：地域医療から専門科まで勉強できるのは強みですね。庄原赤十字病院では、若い先生に「素晴らしいジェネラリストであれ」、そして、「スペシャリティという強みを身につけなさい」と指導しています。

しての役割を担うことも使命だなと思います。それが実現できれば、我々にとっても幸せですね。

安信先生：地域で患者さんをみていくのは、やはり総合医なんです。私も循環器の専門医ですが、総合医の感覚はついていきますし、そういった医師が今後増え、中山間地域で働いていただければ、大きなエネルギーになると信じています。

中西先生：病院同士というものは本来、国立、日赤、医師会立など設立母体も異なり、利害関係があり、そのなかでの連携はどうしても取りにくい。しかし、そういったなかで広島市の中山間地域の病院が一緒になれたというのは、改めてすごいことだと思っています。地域があつて、そこにある10病院が、設立母体を超え、一緒になって地域医療を再生しようとしている。その熱い思いは、必ず若い医師のやりがいと、医師としての幸せなキャリアアップにつながることを確信しています。



南斗六星研修ネットひろしま（広島中山間地病院連携）病院概要

1 Aグループ
広島市立安佐市民病院
広島県広島市安佐北区可部南2-1-1
TEL:082-815-5211

2 Aグループ
市立三次中央病院
広島県三次市東酒屋町531
TEL:0824-65-0101

3 Bグループ
庄原赤十字病院
広島県庄原市西本町2-7-10
TEL:0824-72-3111

4 Bグループ
JA吉田総合病院
広島県安芸高田市吉田町吉田3666
TEL:0826-42-0636

5 Cグループ
庄原市立西城市民病院
広島県庄原市西城町中野1339
TEL:0824-82-2611

6 Cグループ
三次地区医療センター
広島県三次市十日市東三丁目16-1
TEL:0824-62-1103

広島市の最北端に位置する、広島県の医療を担う北の砦。患者層は多種で、24時間365日の三次救急を行う。各診療科の垣根が低く、いつ何時でも連携協力した診療を展開しています。

地域医療、救急医療、2～2.5次医療の真っ只中で、質量とも豊富な症例を経験。プライマリケアのみならず、専門科領域の臨床能力も習得することができます。

庄原市を中心とした地域の急性期医療を担い、年間約9,000人の救急患者に対応。全科当直制により、あらゆる疾患を経験することが可能で、十分な診療能力を身につけることができます。

安芸高田市の唯一の総合病院として、急性期・慢性期医療を提供。「へき地医療拠点病院」として、医療・介護・福祉に取り組み、日常診療で適切に対応できる能力を身につけます。

庄原市北部の地域医療を担い、救急医療から慢性期医療、在宅医療まで幅広く対応。マンツーマン指導で他科の医師とも気軽に相談できる環境のなか、地域包括医療を研修できます。

消化器・循環器内科の専門分野に加え、在宅の視点を持ち、「かかりつけ医」をはじめ、多職種と密に連携した医療を展開。「社会心理的介入」といった幅広い経験ができます。

“南斗六星研修ネットひろしま”
の由来

ギリシャ神話に登場する
アスクレーピオスは、
死者までも
生き返らせたほどの
名医。



アスクレーピオスは、死者を
生き返らせたことから、
「生老病死」の世界秩序を
乱すものとして
ゼウスに殺されて
しまいます。



このアスクレーピオスの
師匠ケンタウロスの
賢者ケイロン。
彼の星座は射手座、
すなわち
南斗六星です。



「南斗六星」の名称には、
この研修プログラムを
履修した研修医から、
多くの名医が
出て欲しいという
願いが込められています。



このプログラムで
広島県の未来を支える
名医になってほしい!



プログラムの概要

研修目標

「地域医療のことは地域で学ぶ」の理念のもと、地域医療を担うプライマリ・ケア医となるため、地域医療を日常的に行っている多数の医療機関において内科診療のみならず、必要な広範囲にわたる多種類の診療科を体験することをとおして、専門的知識・技術をより広くかつより深く身に付けることを目標としています。

対象者

地域医療を担うためのプライマリ・ケアの知識と技術の習得を目指す医師を対象とします。年齢やキャリアに制限はありません。子育て後の医師も大歓迎です。

研修期間

原則3年間ですが、事情により研修期間の変更も可能です。

研修内容

- 「本研修プログラムに参加している10病院をその規模や機能面をもとにA、B、Cの3グループに分け、原則的にそれぞれのグループから1ないし2施設を選択し、合計3から6施設ローテーション。
 - 各施設の研修期間は半年を1単位として、1施設3単位以下でローテーション。
 - Aグループの病院で、多岐にわたる高度な専門医療技術を学び、Bグループの病院でこれを確実なものとして身につけ、Cグループの病院で、実践することによって、確実に地域医療のキャリアアップを図る。
 - ローテーションの仕方や研修内容に関しては、基本原則内で一人一人の希望を十分に取り入れます。
- Aグループ：広島市立安佐市民病院、市立三次中央病院
Bグループ：JA吉田総合病院、庄原赤十字病院
Cグループ：安芸太田病院、三次地区医療センター、庄原市立西城市民病院、
地方独立行政法人 府中市病院機構 府中北市民病院、
公立邑智病院、神石高原町立病院

研修ローテーション（一例）

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
1年目	Aグループ		Aグループ	
2年目	Bグループ		Bグループ	
3年目	Cグループ		Cグループ	

注1) 自治医大や広大ふるさと枠等の出身者においては、公立邑智病院研修期間は義務期間に加算できないことをご了承ください。
注2) 毎年、研修病院全てが参加した、研修会、研修発表会、情報交換会を開催いたします。

10 Cグループ
神石高原町立病院

広島県神石郡神石高原町小畠1763-2
TEL:0847-85-2711

地域に密着した医療を展開し、地域医療研修施設として地域の人々との絆を実感しながら、多くの実践の場で研修ができます。地域の「総合診療医」を目指す最適な研修環境です。

9 Cグループ
公立邑智病院

島根県邑智郡邑南町中野3848-2
TEL:0855-95-2111

「救急車を断らない」、「地域の急性期のニーズの8割に 대응する」をモットーとし、救急医療、地域医療、総合診療を幅広く経験。「総合医養成所」と呼ぶに相応しい環境です。

8 Cグループ
安芸太田病院

広島県山県郡安芸太田町下殿河内236
TEL:0826-22-2299

最新の医療機器を備え、救急、急性期から慢性期、在宅、さらに認知症治療など幅広い医療を展開。裾野が広く、豊かな心と知識を持つ医師の養成を目指しています。

7 Cグループ
地方独立行政法人 府中市病院機構
府中北市民病院

広島県府中市上下町上下2100
TEL:0847-62-2211

「上部消化管内視鏡検査」を苦痛なく行えるまで責任を持って指導。患者さんと触れ合う医療を通して、全人的見地から治療法を選択する「人間学」の実践をしています。

- ① 広島市立安佐市民病院
- ② 市立三次中央病院
- ③ 庄原赤十字病院
- ④ JA吉田総合病院
- ⑤ 庄原市立西城市民病院
- ⑥ 三次地区医療センター
- ⑦ 地方独立行政法人 府中市病院機構 府中北市民病院
- ⑧ 安芸太田病院
- ⑨ 公立邑智病院
- ⑩ 神石高原町立病院



中山間地域でも
高速道路網が発達して
いるので移動しやすい!

「南斗六星研修ネットひろしま」について

地域の医療体制の再生には、地域での若手医師の研修育成が不可欠であり、そのためには、研修医が将来の到達目標を設定することが可能で、かつ安心して従事できるサポート体制の整った研修環境の設備が必要です。さらに、系統的で質の高い本格的な研修システムが渴望されています。

そのため、「広島県中山間部の広大な地域を日常の診療圏として共有する、10の地域医療の拠点病院が連携し行動していく」という意思統一のもと、「南斗六星研修ネットひろしま」が誕生しました。

このようなプロセスを経て作成したのが、プライマリ・ケア医、総合診療医を目指す若手医師のための「広島中山間地病院連携地域医療研修プログラム」です。

地域医療を担うプライマリ・ケア医は、生涯を通じて様々な臨床現場において、常に研鑽を積んでこそキャリアアップが可能であり、自らの診断能力の幅がなければ最善の医療を提供することはできません。

将来、このプログラムに沿って成長した医師が存分に活躍され、地域医療の再生に貢献されることをメンバー一同祈念しています。

南斗六星研修ネットひろしま研修管理委員会
委員長 中西敏夫(市立三次中央病院)

地域医療研修プログラム
広島中山間地病院連携



『南斗六星』とは

ギリシャ神話に登場する名医アスクレーピオスの師匠である賢者ケイロンの星座が、射手座、すなわち『南斗六星』です。

ÉTTO × インタビュー

広島県を支える、誇り高き医師。

広島県を支える“強い医師”へ――。

循環器内科の専門医として、命の現場の第一線で活躍する土手慶五医師が“職人”としての視点から広島県、そして日本の医療を語る。



土手先生は現場の医師の視点から、医療問題に真剣に向き合っている。その想いが広島県の医療を支えているんだ。



医師として、そして人間としても尊敬できる土手先生。若手医師のキャリアも真剣に考えています。



2012年4月、「広島県地域保健対策協議会」(以後、地対協と表記)の常任理事として広島市立安佐市民病院の土手慶五医師が就任した。この地対協は、広島大学・広島県・広島市・広島県医師会の四者で構成され、目的ごとに設置された19の委員会が、広島県の保健・医療・福祉に関する調査研究を行い、行政等に対して具体的な施策を提言することを目的に設置された組織であり、他県には例のない組織である。

土手は、長年、救急医療に携わってきた循環器内科の専門医である。広島大学卒業後、広島市民病院の救命センターに7年間勤務した後、留学するための準備で、一時、大学病院に戻っていた。そんな土手のもとに、安佐市民病院から「新しい心臓病棟を作るので医師として来てくれないか」とい

う依頼が来る。土手は悩んだが、今まで一生懸命やってきたことを活かそうと思いい、安佐市民病院を選んだ。それから20年。安佐市民病院で行った心臓カテーテルの治療件数は、19790件(2012年10月現在)にも及び、そして現在も救急医療の最前線で活躍している。その姿はまさに「職人」と呼ぶに相応しく、土手自身も「医者とは職人でなければならぬ」と常々思っている。そんな土手が、職人という、現場から、地対協という、施策、側面に参加するようになった理由はなんだろうか。「現場で働く医師の意見が行政に反映されなければ、県民に本当に有効な医療施策が打てなくなる。それが地対協に入った一番の動機です」と土手はいう。長年、救急という患者さんの「入口」を担ってきた土手。そこから見えてきたのは、「出口」の問題

だった。「入口の医療は着実に進歩してきた。問題は出口なんです。退院後の患者さんの次の受け皿の整備が、入口の進歩に追いついていない。こ

れからの日本の超高齢化社会に向けて、医療、介護、福祉のつながりがない、円滑な連携の仕組みを早急に構築する必要があるんです。そうしたことを地対協から提言したいと思っています」。広島県という枠にとらわれず、日本全体の医療問題をどうにかしたいという土手の熱い想い。その想いは、若手医師のキャリア形成にもしっかりと向けられている。土手は月に一度、中山間地の病院に出向き診療を行っている。そのきっかけは、中山間部から通院が困難となった担当患者さんがいたこと。そして、もう一つは、卒業9年間、へき地医療に従事しなければならぬ自治医大出身の先生の存在があったからだ。「患者さんを紹介した病院から、「自分の診断は正しかったのだろうか」というフィードバックがないのは紹介した医師にとって大きな不安なんです。また、診断の正否が分からなければ、地域医療に従事する医師にとって大切な、確かな診断力も身につかない。そのフィードバックは医師同士の交流がなければ難しいですね」。

土手は、心臓カテーテル室で死んでいった人が生き返るといふ奇跡を幾度も目の当たりにしてきた。その体験は医師として強いエネルギーになるが、ときとしてそれは、自分が神のごとく命を握っているという傲慢さも生み出す。土手は常々、若い医師たちに、「強い医師になれ」といっている。「強い医師になるためには、命を握っているという経験は必要なんです。若いうちは、ある程度の傲慢さは許される瞬間がある」と土手はいう。強い医師とは、「患者を治せる医師」であり、その強さは、医師としての誇りと、充実したキャリアに向けた大きな土台となる。「広島県には大都市に負けない、強い医師になるための人と教育と環境が揃っている。ヨーロッパやアメリカのシンポジウムで発表するなど、インターナショナルに活躍している医師も多くいるんです」と土手。そしてなによりも、広島県に、若手医師のキャリアを真剣に考え、中山間部に出向き、強い医師として現場に立ち続ける土手という医師がいる。「若い医師の皆さんには、自分のガイドラインを作る気概をもつような、エネルギーに満ちあふれた医師になって欲しい。医師として一番幸せを感じているときは、エネルギーに活動しているときなんですよ」。そういった土手の笑顔に医師としての幸せが溢れていた。



土手慶五 先生
 広島市立安佐市民病院
 循環器内科主任部長 内科部長
 広島県医師会 常任理事
 広島県地域保健対策協議会 常任理事

【専門・資格】
 日本循環器学会専門医
 日本内科学会認定内科指導医
 日本心血管インターベンション治療学会指導医・評議員
 日本心臓病学会特別正会員(FJCC)
 広島大学臨床教授
 医学博士

Hiroshima Green Summit

～ 広島グリーンサミット～



広島の初期研修医から
広島の医療を盛り上げよう！

研修医の交流の場として、人がつながり、広がる魅力

初期研修医による、初期研修医のための勉強会をテーマとして掲げ、症例検討会を企画・運営している、「Hiroshima Green Summit」(以後、HGSと表記)。毎回、広島県の各病院の初期研修医がプレゼンを行い、指導医や開業医、さらにコ・メディカルの方々と特別講師に招いて、興味深い症例、見落としやすい症例について検討、ディスカッションをしている。

HGSの目的は、勉強会による医師としての研鑽はもちろん、楽しく学ぶことを基本とした、初期研修医同士の交流の場としての側面も大きい。勉強会のあとには「懇親会」が開催され、参加者たちが

さらに交流を深められるのも魅力だ。HGS初代代表である広島市民病院の中島和寿はいう。「もちろん勉強会は重要な目的ですが、何よりも他病院の研修医の先生たちと、HGSを通してつながることができることに意義があると思います」。初期研修の2年間で過ぎ、後輩にHGSの運営をバトンタッチした中島だが、HGSでの一番の思い出を聞くと、「第二回目の症例発表をしたことですが、やはり一番の思い出は、仲間や先輩たちと一緒にやってきたこと。HGSを通していろいろな先生と出会うことができたのは大きな宝です」と答えた。同じく、設立から参加していた広島市民病院の児玉昌子は、「症例を発表する研修医、勉強会に来てくれる研修医、講師をやっていた

初期研修医から広島の医療を盛り上げる

HGSは初代代表の中島の後、木下直人(現広島大学病院脳神経内科 後期研修医 平成22年卒)が引き継ぎ、関西や四国地方の勉強会と交流を図るなど、HGSの活動範囲はさらに拡大した。現代代表は広島市民病院の初期研修医、高橋一剛と、広島大学病院の初期研修医、吉田雄介だ。高橋

だけの指導医や開業医の先生方が、みんな一体となって、楽しい雰囲気なかで勉強ができ、参加者同士の交流が深まっていく。HGSのスタッフとして参加していて、それは本当に素晴らしいことだと思えました」。HGSによって、他病院の初期研修医同士だけではなく、後輩医師、先輩医師、指導医、開業医と、人と人とのつながりが広がっていく。それがHGSの大きな魅力である。

は、引き継いだ当初の苦労をこう語る。「やはり、回を重ねることに内容をグレードアップしてきたHGSを維持していくことが、いかに大変なのか感じました。もっと活気あるものになりたいという思いはみな強いですね」。吉田は、「大変ですが、正直、苦勞を感じたことはないです。むしろ、初期研修医から広島の医療を盛り上げるといって、やりがいと楽しさのほうが大きいですね」と力強い言葉が返ってきた。中島は、そんな先輩たちに、「とてもよくやってくれていると思います。そんななかで子どもでもいいから、いつまでも受け継がれていって欲しいですね」と応える。児玉も、「設立当時、HGSをきつかけに、そしてHGSが受け継がれていくことで、どんどん新しいものが生まれ、広がっていくんだなと強く感じたのを覚えていますし、今でもそう思っています」と、これからのHGSに期待を寄せている。



毎回、初期研修医がプレゼンターとして症例を発表。その後のディスカッションでは参加者みんなが積極的に発言する。楽しい企画も用意され、いつも会場は盛り上がっています。



高橋一剛 先生 HGS現代代表
広島市立広島市民病院・初期研修医2年目

出身 広島県
出身大学 岡山大学(平成23年卒)

HGSとは別に、後期研修医の先生をはじめ、いろんな先生が週に1回レクチャーしてくれます。勉強のモチベーションが上がる環境のなか、自分次第で多くの知識・技術が吸収できます。



児玉昌子 先生
広島市立広島市民病院・後期研修医
(初期研修も同病院)

出身 広島県
出身大学 広島大学(平成22年卒)
診療科 麻酔科・集中治療部

診療科ごとの垣根が低く、ロールモデルとなる先生方がたくさんいて、話や相談をできる機会もたくさんあります。医師としての力が確実に身に付くERでの研修は大きな魅力です。



吉田雄介 先生 HGS現代代表
広島大学病院・初期研修医2年目

出身 広島県
出身大学 広島大学(平成23年卒)

自由な雰囲気と活気に溢れた環境のなかで研修ができます。尊敬できる先生が多く、多様な診療科があるから、進路に迷っている先生も必ず進みたい専門科が見つかるはず。



中島和寿 先生 HGS初代代表
広島市立広島市民病院・後期研修医
(初期研修も同病院)

出身 島根県
出身大学 広島大学(平成21年卒)
診療科 呼吸器内科

病院全体がバックアップしてくれる環境のなか、HGSをはじめ、新しいことに挑戦できる自由な雰囲気があり、のびのびと研修生活を送ることができます。

研修医って?!

経験を積んだ医師は、
患者さんを落ちつかせます。



看護師は、患者さんに
パワーを与えます。



指導医は、
患者さんから
頼りにされます。



研修医は...
患者さんから励まされます。



広島県の人たちは
あたたかいんです



Hiroshima Green Summit 代表

高橋 一剛 先生 (広島市立広島市民病院・初期研修医)
吉田 雄介 先生 (広島大学病院・初期研修医)



『広島初期研修医から広島の医療を盛り上げよう!』をテーマに発足された、広島地区の初期研修医による初期研修医のための勉強会です。毎回、各病院の初期研修医が実際に経験した症例を基に、症例検討会を行っています。勉強会の後は懇親会! 普段あまり関わることのない他病院の研修医との交流できることも大きなメリットです。

今後は新たな企画を計画していきます! 県外の人にも大歓迎「参加してみたい!」「興味はあるけど、どんな会かわからない…」など、何かあればぜひ御連絡ください!

HGS勉強会のあとは、
懇親会!
楽しく学んで交流を
深められるのは
大きな魅力です。



HGS WEBサイト

<http://hiroshimagreensummit2010.jimdo.com/>

HGS STAFF

代表: 高橋一剛 (広島市立広島市民病院初期研修医)
吉田雄介 (広島大学病院初期研修医)
<スタッフ>
益田俊 (広島大学病院初期研修医)
東原佑 (広島市立広島市民病院初期研修医)
徳毛健太郎 (JA広島総合病院)



HGSへの参加は 将来、大きく活きてくる

初期研修医にとってHGSへの参加は、知識の向上以外にもメリットがある。臓器別ではなく「幅広い症例を検討することにより、めざす専門科を決めるとき参考になる」とことや、「初期研修医同士が教え合うことで成長することができる」とことなどがあげられる。吉田はいう。「初期研修の段階で、みんなが病気を総合的にみ

る視点を持ちながら勉強会をする。そのこと自体が、広島県の医療の底上げに繋がっていくと感じています」。高橋は、「HGSという場を通して、教える側にたつことで、自分も成長できる。後輩からも教えられることが多く、本当にためになっています」と語った。今回、登場してくれた、中島、児玉、高橋、吉田の4人に、広島県で研修をする魅力を聞くと、それぞれがHGSの存在をあげた。それだけHGSは参加した初期研修医にとって大きな存在感をもつものなのだ。HGS初代代表の中島は、「何年後かに、現在HGSに参加している人たちが、指導医となり、講師として参加してくれる。そうならいいですね。それに、HGSで多くの人がつながりができることで、将来、専門外でわからないことがあったときに電話しやすいですね。HGSに参加することは、将来にわたって大きく活きてくると思っています」と語った。そして、今回登場してくれた4人が勤務する、広島市民病院、広島大学病院など、HGSの活動を応援してくれる病院があるということ。それが何よりも、広島県で充実した研修を積むことができる証ではないだろうか。

Hiroshima Green Summit の取り組み

HGS 勉強会

研修医プレゼンターによる症例発表の勉強会。広島県の医療を支えるべく立ち上がった熱き研修医たちのバトルがここにある!? 専門医やコ・メディカルの特別講演もあり! 学生、後期研修医の方々の参加も大歓迎です。投票によるベストプレゼンター賞、ベストコメント賞を決定するなど楽しい企画を毎回用意。勉強会の後は恒例の懇親会を開催!



診察ワークショップ

診察テーマを決め、鑑別診断に必要な問診技術や模擬患者を用いて診察技術を学べるのが、「診察ワークショップ」。プレゼンターによる診察講義やデモ診療で、診療の「コツ」をしっかり習得。グループに分かれて行われる診療・問診技術の練習は、真剣、かつ、ときどき笑いもあり!? なワークショップで、楽しく診察技術を学ぶことができます。



福山市の医療の魅力

備後地域の医療を支える福山市内の病院には
研修の魅力がたくさん詰まっています



福山市は、山と海に
抱かれた癒しの地。
アクセスも、生活も、
買い物も、福山市は
さまざまな魅力に
溢れています。

福山は、都会としての機能を持ちながら、
海と山の心落ち着く美しい景観も多く、
バランスの取れた住みよいエリア。中国地
方のほぼ中心に位置し、山陽新幹線では
「広島」駅まで30分。「岡山」駅まで16分。
「新大阪」、「小倉」駅までも1時間程度で
着くなど、アクセス面も非常に便利。
ショッピングにも、ちょっとした旅行にも、
美しい自然を満喫するにも、生活の全て
を楽しむことができます。

福山エリア編

ひろしま 未来医師 魅力学課

広島県の地域と
医療の魅力を紹介する



5

指導医の先生と繋がりを
深めることができます！

市内にある5つの各臨床研修
病院の定員は2~6名です。
基本的に1つの診療科で1人
の研修医が研修を行うこと
により、指導医の先生と繋がりを
深めることができます。



3

高度な脳神経疾患・
心疾患について学べる！

備後地区中心に、CT画像伝送
システムによる脳疾患の
救急連携診療に取り組んでいる、
大田記念病院や、循環器を専門とした
福山循環器病院などの
協力型臨床研修病院があります。

※ともに、日本鋼管福山病院、中国中央病院な
どの協力型臨床研修病院です。



1

高度な救急医療が学べる！

救命救急センターを併設した
福山市民病院があります。

■救急車搬入件数
2,852件
H23年度(4.4~3.31)



6

めずらしい疾患への対応が
学べることも！

例えば、1984年の発見以降、日
本では年間10~60件程度の発
生が報告されている日本紅斑熱
の発生は西日本に多く、これま
でに福山市及び近隣の尾道市・三原
市・府中市では、56件の発生が報
告されています。



4

NICU等で豊富な
診療が学べる！

県指定の
地域周産期母子医療センター
福山医療センターがあります。

■早産児、低出生体重児などの
入院受入数・年間約

150~200件



2

専門的ながん診療が
学べる！

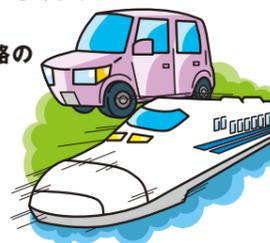
国指定のがん診療連携拠点病院
福山市民病院と県指定のがん診療
連携拠点病院福山医療センター、
中国中央病院があります。

福山市はこんなところ

2016年に迎える市制施行
100周年に向けて
「ばら」の植栽本数
100万本を
めざしています。



JR福山駅には、
新幹線のぞみやさくらが
停車するなど、
鉄道や高速道路の
利便性も抜群！



保育所の
待機児童ゼロを
実現！



福山市で生活してみよう



安くて広くて住みやすい！

JRの駅から徒歩10分以内の
マンションの家賃は

- 1Kタイプ ……平均4万円
- 1LDKタイプ ……平均5万円代



ショッピングは？

買い物にも便利で、
活気にあふれた福山市！

- ・天満屋福山店
- ・アイネスフクヤマ
- ・サンステーション
テラス福山(福山駅ビル)
- ・イトーヨーカドー

他の市や県への移動は？

広島市 ●山陽新幹線…30分
●車 ……60分
(広島I.C.から福山西I.C.まで)

尾道 電車…20分
●海岸通りをゆったり散策。
●尾道ラーメンを食べる。
●ロープウェイで千光寺へ。

大阪 山陽新幹線
…60分

広島
空港 ●リムジンバス…60分

倉敷 電車…40分
●駅からすぐの
三井アウトレットパークで
ゆっくりショッピング!!

東京 山陽新幹線
…3時間40分



医療機関・行政等の連携

小児救急医療での連携

小児の救急について各医療機関の役割を明確化しています。

- 休日昼間の初期救急
かかりつけ医が当番制でがんばっています。
- 夜間の初期救急
「福山夜間小児診療所」で小児科医師ががんばっています。
(患者数:13,533人/H23年度)
- 二次救急
4つの輪番病院(福山市民病院、福山医療センター、日本鋼
管福山病院、中国中央病院)ががんばっています。(患者数:
3,351人/H23年度)

県境も越えて連携

福山市の医療機関は、広島県東部地区及び
隣接する岡山県井笠地区(井原市・笠岡市)の
圏域内で、中核的な役割を果たしています。

- 圏域内の救急患者の受入対応について関係機関で
連携をしています。
- 発達障がいに対する相談・診療を行っている「子ども
発達支援センター」は、周辺都市(尾道、三原、府中
各市と世羅、神石高原両町、岡山県笠岡、井原両市)
と共同で運営をしています。



福山市 DATA

- 臨床研修病院は5施設。(福山医療センター、福山市民病院、日本鋼管福山病院、中国中央病院、福山第一病院)
- 医師数は956人。(広島県内の医師数7,112人の約13.4%) ※H22医師・歯科医師・薬剤師調査
- 人口は462,114人。(広島県内の人口2,849,104人の約16.2%) ※「広島県人口移動統計調査」H24.10.1現在
- 病院数は44施設。200床以上の病院は8施設であり、200床未満の病院が大半を占める。
(広島県内の200床以上の病院数64施設の約12.5%) ※H24.9.30現在

編集後記

広島県の医療と医師の魅力を紹介するマガジン、『ÉTTO(えっと)』創刊号。いかがでしたでしょうか。広島県で活躍する医師たちの、広島県の医療に対する熱き想いが伝わったでしょうか。『ÉTTO』を読んでいただき、「広島県で医師をしたい」、「広島県で医師であり続けたい」と、少しでも感じていただけたら、「えっと」嬉しいですね。そして、広島県に来ていただけたら、「えっと」嬉しいです。

『ÉTTO(えっと)』へのご意見、ご感想などがございましたら、気軽にご連絡ください。それでは、『ÉTTO』2号でまた、お会いしましょう。

広島県地域保健医療推進機構

地域医療推進部長
武内 庸子

地域医療推進部医監
古川 正愛

木村 秀則
臺 敏則
堀益 弘明
田中 淳之
寺下 暁
石橋 道子
上中 圭子
土屋 和栄

STAFF CREDIT

発行
財団法人広島県地域保健医療推進機構

編集制作
株式会社メディカル・プリンシプル社

制作コーディネーター
原 誠一郎
酒元 聡
池 伸一郎

印刷
株式会社メディア出版

アートディレクター
勝又 繁和

ライター
田口 素行

カメラマン
小山 英樹

イラストレーター
山田 裕介



広島カープとサンフレッチェ広島

広島県は、「広島カープ」と「サンフレッチェ広島」、さらに地方では珍しいプロオーケストラ「広島交響楽団」などのプロ団体を所有。いろんなプロを間近で体感することができる広島県はスゴイんです。

広島市内にあるショッピングスポット

- 三越
- そごう
- 福屋
- パルコ
- 東急ハンズ
- LoFt
- EDION etc.



Shopping

ショッピング

程よい都会で、住みよい広島は、ショッピングセンターやデパート、大型電気店も充実。なんでも揃う便利なまち、それが広島県です。

あっ！ という間の広島県。

広島県はアクセスの利便性も抜群！

広島県の東西を新幹線が貫き、高速道路は東西南北の各方面に伸びているなど、国内移動、県内移動ともに、ラクラク便利です。

広島県内、東西南北の端から端まで約2時間で
行ける近さ！



山口県

島根県

岡山県



新幹線で、飛行機で。全国への移動も便利です！



JR新幹線(のぞみ)

東京	福山へ 3時間 28分(最速) 広島へ 3時間 48分(最速)
名古屋	福山へ 1時間 51分(最速) 広島へ 2時間 11分(最速)
新大阪	福山へ 1時間 1分(最速) 広島へ 1時間 20分(最速)
博多	福山へ 1時間 26分(最速) 広島へ 1時間 2分(最速)

札幌(新千歳)	約2時間
仙台空港	約1時間 35分
東京(羽田)空港	約1時間 20分
沖縄(那覇)空港	約1時間 40分

ÉTTO × 広島

広島県の面白さを医師として楽しむことにしました。

広島県の魅力をさまざまな角度から紹介

広島県は、「日本の縮図」や「万能型都市」といわれているように、経済・社会・文化・商業・工業の様々な要素をもち、「都市」としての機能を有しながら、「自然(海・山)」も豊富。さらに全国・県内移動のアクセスに優れているのも特徴。どんな人にも住みやすく、自分らしく自由に暮らすことができる、贅沢な地なのです。



小いわし

大きさは成魚でも10cm程度。7回洗えば鯛の味がすると言われる小いわしの刺身や天ぷらは絶品です！



アユ

広島県の流れの早い清流で育った若アユは、身の締りもよく、京阪神方面の料亭へ高値取引されるほどの美味。



牡蠣

広島県の牡蠣の特徴は、肉厚で味が濃厚。香り高い広島レモンを絞って食せば、広島牡蠣の醍醐味が味わえます。



レモン

瀬戸内の温暖な気候に生まれ、まろやかな酸味が特徴。防腐剤を一切使用していないので皮ごと安心して料理に使えます。



お好み焼き

生地と具を混ぜあわせないので特徴。ソースは濃厚な甘口を基本とし、お好みでマヨネーズをかけて食べます。酒のしめにも相性抜群。



おいしい 広島